

【記入例】 学生の研究活動

連合講座：生物機能科学

所属大学：島根大学

氏名（ローマ字）：大山寺 栞美（Daisenji, Masumi）

入学年度：平成 26 年（後期）

主指導教員名：連大 太郎

I. 公表論文

著書

←←← 【教員の研究活動】の例を参照ください

■学会誌等

- 1) Daisenji, M., Yamaguchi, S., Shimane, J. and Reandai, T.: Ammonia uptake in *Manduca sexta* midgut is mediated by an amiloride sensitive cation/proton exchanger: Transport studies and mRNA expression analysis of NHE7,9, NHE, and V-ATPase. *Comparative Biochemistry and Physiology, Part A*, **157**: 364-376 (Dec., 2016)
- 2) 大山寺栞美・連大太郎：高梁川水系における *Corbicula* シジミの成長と生存. *水環境学会誌*, **37**: 128-133 (2017年3月)

▼その他

- 1) 隠岐四郎・大山寺栞美・連大太郎：環境保全水田集落と農薬慣行散布水田におけるウンカの群集構造. *島根県病害虫研究会会報*, **25**: 14-18 (2016年12月)

II. 学会発表（発表者にアスタリスク（和文：*、英文：*）を付す，口頭発表 or ポスター発表のいずれかを記載する）

国際学会

- 1) Daisenji, M.* and Rendai, T.: Thermostabilization of ovalbumin by an alkaline treatment: Examination for the possible implications of an altered serine residue. 5th Pacific Rim Food Protein Symposium (Oral). Vancouver, Canada (Aug., 2016)

国内学会

- 1) 大山寺栞美*・山口三郎・島根次郎・連大太郎：開花期前後に受けた過湿ストレスは登熟期の地上部と根茎の生育に影響する（ポスター）. 日本作物学会第 64 回講演会（岡山県福山市）（2016年9月）
- 2) 隠岐四郎*・大山寺栞美・連大太郎：解離胚細胞の空間的再配置における細胞運動性（口頭）. 日本動物学会第 83 回大会講演会（愛知県豊橋市）（2016年10月）

III. 学会等招待講演（発表者にアスタリスクを付す）【該当しない場合は空欄で結構です】

国際学会等

- 1) Rendai, T.* and Daisenji, M.: Water saving in irrigation at the field level. The 8th International Conference on Mushroom Biology and Chemical Control. Portland, Oregon, USA (Mar., 2017)

国内学会等

- 1) 該当なし

IV. その他（特筆すべき事項）（平成28年度（2016年度）のみ）

- 1) 日本農芸化学会 BBB 論文賞（2016年4月4日）
- 2) 日本植物病理学会学術奨励賞（2017年3月25日）